子育て支援だより

「子育てワンポイントアドバイス」

第154回　『『問題行動の本当の意味』』

こころの相談員　前田　里美

　周囲の人を困らせる問題行動には、本人は自覚がなく困っていない場合と本人も困っている場合があり、子どもが意図的であろうとなかろうと何かしらの意味があるものです。
　例を挙げてみましょう。①注目を得たい…これは「もっと自分を見てほしい、認めてほしい」という欲求からくるものです。問題行動以外の良い行いや出来ている事・問題行動をしていないという事を褒めるのがいいと思います。また、他の行動で気を引くのではなく出来ればその思いを言葉で伝えられるよう教えてあげましょう。関心を持ってもらえている、認めてくれていると感じれば治まっていきます。
　②嫌な事から逃げたい…例えば勉強が嫌であれば少し前の分かる段階に戻って達成感を味わわせたり、特に低学年は時には一緒に勉強したり、苦手な事もコツコツ取り組むという体験を積み重ねることです。子育ての最終目標はある意味《繰り返しの仕事をコツコツ続けていける大人》に育てる事ではないかと思います。しかし、精神的にダメージを受けている時などは一旦逃げて落ち着いたら再度挑戦するのも良いでしょう。なぜ嫌なのかが分かればそれに対処し、逃げずに取り組むことが出来るかもしれません。
　何か他の困った状況があり間接的に問題行動が出てくる時もあります。学校や家に不満を持ちルールを破ったり身なりが華美になる場合や、学校で頑張っているので家ではワガママであったり暴れたり、またその逆もあるでしょう。頭ごなしに叱ったりせず、よく観察してみてはいかがでしょうか。

＊前田相談員は、小学校・中学校などで相談活動を行っています。

夏休みプチボラ事業

　８月29日、あさひっ子クラブ、日の本クラブの子ども達を対象に、バイオリンとピアノのコンサートを保健福祉センターで行いました。
　プロのバイオリニストである奥村優さん、同じくプロのピアニストである井浦貴子さんが、クラシックから、葉加瀬太郎作曲の「情熱大陸」、「となりのトトロ」や「アナと雪の女王」の映画音楽と、幅広いジャンルの素晴らしい演奏を聞かせていただきました。
　「バイオリンの絃は何でできているの？」など、バイオリンに関するクイズもあり、みんな意外な答えに驚いていました。（答えは羊の腸。ちなみに、弓は馬のしっぽの毛。）
　最後には、バイオリンとピアノの演奏で、「森のくまさん」「ゆめをかなえてドラえもん」をみんなで大合唱をしました。楽しい、貴重な、夏休み最後の思い出となりました。

奥村さんの小学校３年生の娘さんも演奏してくれました。３歳からバイオリンをはじめたそうです！